

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年9月25日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.50】

革マル弁護士は東海労・西労・九州労にも深く関与！

前号では、JR総連の裁判と革マル派の裁判との担当弁護士の8名が同一人物で、その中に革マル派の党中央を代理していた弁護士も含まれていることを紹介した。引き続きこの問題を検証する。「月刊日本」(2000年8月)の当該記事には、次の通り記載されている。

JR総連・JR東労組関連の裁判と革マル派裁判の担当弁護士が同一人物である

(表1)は、JR総連もしくはJR東労組が関連している裁判である。「歪んだ鉄路」損害賠償請求事件や週刊文春事件、さらにJR東海におけるJR東海労組員(現JR総連執行委員、[注:現在はJR総連特別執行委員])解雇事件や、JR総連元総務部長の合同葬会場拒否事件などに関わっている弁護士が奇しくも(表2)に示す革マル派活動家等の逮捕や革マル派活動拠点搜索事件に関わっている。表以外にもJR東海やJR西日本、JR九州でのJR総連系組合が関与している事件にこれらの弁護士が多く関わっている。また、東京電車区でJR東労組から国労に脱退した組合員に傷害を負わせた事件や、国鉄時代の黒磯駅暴力事件にもこれらの弁護士が関与している。

多くの裁判事件でJR東労組の弁護士と革マル派関与事件の担当弁護士が共通していることは果たして偶然と言い切れるのであろうか。JR総連・JR東労組と革マル派との因果関係が何かあるとしか思えないとの指摘が各方面から出されている。尚、この内の一部弁護士については、つい最近(今年のJR東労組の大会(2000年6月22日~24日)直前)までJR東労組の顧問弁護士をしていたが、何故か今年の東労組大会で交代となったことが判っている。これは「偽装転向」と関係があるのかどうか憶測を呼んでいる。

「JR東海やJR西日本、JR九州でのJR総連系組合が関与している事件」について調べると、実際、当該弁護士の多くが関わっていることがわかる。例えば、西労関係では、脱退や転勤、乗務員勤務制度などの裁判について、前号の表のT・A氏は5件、T・H氏は1件、N・T氏は2件、N・K氏は1件、M・M氏は2件、H・T氏は5件をそれぞれ担当している。弁護士の問題を通じて、東海労や西労と革マル派との密接な関係も浮かび上がってくる！

九州労は前東労組顧問弁護士・M氏を「革マル派応援団長」と糾弾！

また、先に検証したJR九州労大量脱退事件では、事件直後の2000年10月下旬、前号の表のM・M氏が、解雇された元九州労書記の小西氏や、組合員権を停止された九州労U氏の問題に対する抗議に、九州労本部へ数次に亘り押し掛けて騒動になったようだ。同氏は革マル派・JR総連双方の裁判を多数担当し、同年6月まで東労組の顧問弁護士であった。なお、小西元書記は大量脱退事件について「坂入さん本人が『大量脱退劇は、坂入さん、田岡さん、船戸さん、北さんで意思し、決めたことであつた』と言っている」と述べた人物(No.31参照)。そして九州労の「組織情報」(2000年10月31日、234号)は、「またまた登場！！革マル派応援団長『M弁護士』」との見出しでM氏を糾弾している。

前号で紹介したJR総連の関連裁判を担当する弁護士が、革マル派と密接に関係している可能性はきわめて高い。警察作成とみられる革マル派「綾瀬アジト」押収物の解析資料にも、革マル派弁護士の氏名が記載されているという。疑惑はますます深まるばかりだ！